

コンサル契約調印

ホンジュラス グアシロペ橋架替

オリコンサル
グローバル
オグ

オリエンタルコンサルタンツグループは10日、ホンジュラスのインフラ交通省（SIT）と「国道1号線橋梁（グアシロペ橋）架け替え計画」の施工監理と入札支援に関わるコンサルタント業務の契約に調印したことを明らかにした。同国のシオマラ・カストロ大統領による新政権で新たに発足したSITが締結する初の契約調印となる。

中米諸国を連携するパンアメリカンハイウェイ（PAH）の安全性確保のため、1943年に建設されたグアシロペ橋を、日本の無償資金協力で掛け替える。新グアシロペ橋は耐候性鋼トラスドラングアーチ橋+PC箱桁橋で橋長160㍎。

同社が別途手掛ける、物流ロジスティクス開発マスタープランのCOMITRAN加盟6カ国（グアテマラ、ホンジュラス、エルサルバドル、ニカラグア、コスタリカ、パナマ）が連携する貿易・経済活性化に寄与する事業にも位置付けられている。

また、新型コロナウイルス

の影響で世界的な渡航制限が続く中、同社のパナマ現地法人 O C L A T I N A M E R I C A のリソースを最大限に活用して調査を継続しプロジェクト実施に至った功績は調査時の発注者である J I C A（国際協力機構）からも高く評価されている。

4月28日に開いた調印式には、SIT からマウリシオ・ラモス大臣、マルコ・ベラスケス副大臣ら、オリコンサルグループからは藤熊昌孝執行役員営業本部副部長兼道路交通事業部担当らが参加した。席上、ラモス大臣は「ホンジュラス発展における歴史的なプロジェクトの調印である」と語った。



藤熊執行役員(左)とラモス大臣